

平成29年10月4日

職員各位

市長

平成30年度予算編成における基本的な考え方

平成30年度当初予算の編成に臨むに当たり、市政に対する私の思いをここでお伝えいたします。

本市を含め我が国においては、少子高齢化が進行し、人口減少社会が到来しています。特に生産年齢人口の減少は、市の活力を維持できない危惧があり、こうした厳しい現実を共通認識とした上で、行政の担う役割についても様々な変革が求められ、その要請に的確に応えていかなければなりません。

そのため、市民とともにまちづくりに取り組んでいくための指針となるよう、今年度より「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」を策定し、将来都市像「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」の実現に向けての歩みを職員の皆さんとともに進めているところです。

平成28年度決算は、すべての会計で黒字を維持しました。しかし、歳入では、市税は2年ぶりに100億円を超える増収となったものの、地方消費税交付金や普通交付税などの一般財源が約5億円の減収となり、歳出では、子ども子育て支援事業などの扶助費や、総合運動公園リニューアル事業などの普通建設事業費が大きく伸びたことにより、実質収支が約9億円と前年度より4億円減少し、ここ数年の右肩上がりの良好な決算状況はひとまず収束した形となりました。

今後も、納税人口の減少や、減収分を補てんするための基金の取り崩しなどが予想され、限りある財源を有効に活用し、効果的な事業を展開できるよう、職員の皆さんには知恵を絞っていただきたいと切に願うところです。

さて、平成30年度は、本市のまちづくりの最上位計画である「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の2年目であります。「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」を、引き続き目指していくまちの姿に掲げ、「子育て環境日本一」「市民活動日本一」「防災・減災日本一」「スポーツ健幸日本一」の4つの重点目標と具体的な取組を通して、「いつまでも住み続けたい」「いつかは住んでみたい」と感じてもらえるような持続可能な地域づくりを力強く推進していきたいと考えております。

そのため、常磐線佐貫駅周辺を中心とした賑わいを創出するため、「常磐線佐貫駅駅名改称」、牛久沼を活用した「道の駅」整備事業、佐貫駅東口駅前ロータリー改修と佐貫3号線整備事業につきましては、引き続き推進していきま

す。

併せて、龍ヶ崎市街地、佐貫市街地、北竜台市街地、龍ヶ岡市街地の4つの住宅系市街地とつくばの里工業団地の工業系市街地で構成される分散型の都市構造という本市の特徴を踏まえて、コミュニティバスの充実など、各市街地間のネットワークの向上を図り、多極ネットワーク型のまちづくりを目指していきます。

また、子育てしやすい環境を整え、子どもと住みたい龍ヶ崎の実現、住んでいる人がいきいきと活動できる市民参加のまちづくり、安心安全に暮らせるまちづくりなどの取組を推進し、定住促進につなげていきます。

さらに、限りある資源を有効に活用し、将来にわたって維持していくために、公共施設の再編成・計画的な施設の維持更新は重要な課題であり、学校給食センターの統合、保健センター・福祉センターの機能を統合した新保健福祉施設の整備なども進めていかなければなりません。

以上のように、平成30年度は、人口減少社会の到来というかつてない社会の変化を的確にとらえ、将来にわたって活力ある龍ヶ崎市の実現に向け、全庁一丸となって、様々な事業を具体化していく年であります。

取組の実現には、健全な財政運営と財源の確保が必要であり、「龍ヶ崎市財政運営の基本指針等に関する条例」に基づく財政健全化の取組も引き続き進めていかなければなりません。

施策の実現・課題の解決のためには、職員の皆さんの実行力と事業の実施の裏付けとなる予算が必要です。目標達成のために何が必要なのか精査し、市民の方からいただいた税金その他の財源を有効に活用できるよう創意工夫をしていただきたいと思います。

最後に、市民福祉の向上のため、日々の業務に邁進されている職員の皆さんに敬意を表します。また、休日返上での業務など、日々の対応等についても感謝申し上げます。このような取組の積み重ねによって本市の今日が担われ、明日が切り開かれることは間違いありません。

心身ともに健やかにご活躍いただけるよう祈念いたします。